

那智勝浦町概要

1 地勢

本町は、和歌山県の南東部に位置し、東は黒潮洗う熊野灘に臨み太地町と接し、西は串本町及び古座川町、北は新宮市に接している。内陸には山が迫り、山地と丘陵地を合わせた面積が総面積の90%を占めている。

紀伊山地の南に連なる那智連峰からは那智川、太田川の両河川が熊野灘に注ぎ、海岸部では見事なりアス式海岸を展開している。温暖多雨な本町は、風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれたところである。



2 面積

183.31 km²

3 広袤^{ぼう}

東西 19.80km

南北 19.20km



郷土のあゆみ

本町は、先史より人々が生活していた証として、縄文・弥生時代の遺跡や土器など、太古からのメッセ - ジが数多く出土している。名瀑那智の滝を抱く那智山は、日本の代表的な聖地として歴史적으로よく知られ、熊野三山の一つとして、修験道や観音信仰と結びついて発展し、「蟻の熊野詣」と言われるほど参詣路（熊野古道）はにぎわった。

平安時代の頃は、権門勢家や社家土豪など荘園の私営もみられ、やがて地方豪族の所領となり、江戸時代には新宮城主水野氏の治下に置かれた。明治 4 年の廃藩置県で和歌山県の所管となり、明治 22 年の市町村制の施行により本町域には、勝浦村、那智村、宇久井村、色川村、上太田村、下太田村、下里村の 7 か村が生まれた。

その後、勝浦村、那智村、下里村が町制を施行し、上太田村と下太田村が合併して太田村となり、昭和 30 年には勝浦町、那智町、宇久井村、色川村の 4 町村を合併して那智勝浦町が誕生した。

さらに昭和 35 年、下里町、太田村を編入して現在に至っている。以来、自然を保護し、天与の景観を守りつつ、「豊かで、明るく、住みよい町」の実現へ向けて歩み続けている。

町 章



町花 つつじ



町木 かし



管内案内図



令和2年4月1日現在		消防本部・消防署
面積	183.31km ²	
人口	14,773人	消防団本部
男	6,880人	
女	7,893人	消防分団屯所
世帯	7,700世帯	

町人口に外国人登録者（令和2年4月1日現在）を含めています。

那智勝浦町消防の沿革

明治 39 年		私設天満消防組創設、75 人
明治 40 年	4 月	那智消防組創設
明治 41 年	4 月	勝浦消防組創設、65 人
明治 42 年		私設井関消防組創設、50 人 (この時期各町村は、消防組を組織する。)
昭和 4 年		下里消防組に消防タービン式ポンプ 1 台配置
昭和 7 年		勝浦消防組に消防自動車(米国製フォード V18 型四輪車)1 台配置
昭和 8 年		勝浦消防組に消防艇「白龍」(約 3t、ポンプ 1 基、エンジン 1 基)1 隻配置
昭和 9 年	9 月	町の議決を経て、私設那智消防組を公設消防組に改編
昭和 14 年	4 月	勅令第 20 号、警防団令に基づき各町村は、消防組を警防団に改編
昭和 17 年		那智町警防団に消防自動車 1 台配置
昭和 19 年	12 月	7 日、東南海地震発生(M8.0、当町における死者 34 人、行方不明者 4 人、流出家屋 218 棟)
昭和 21 年	12 月	21 日、南海道地震発生(M8.1、新宮市では倒壊家屋続出)
昭和 22 年	10 月	消防団令に基づき、各町村の警防団を消防団に改編
昭和 24 年	7 月	勝浦町消防団所属第 2 号消防艇「白龍」進水
昭和 28 年		下里町消防団に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 30 年	4 月	4 か町村合併に伴い、那智勝浦町消防団発足(4 個分団、256 人) 旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 33 年	7 月	消防相互応援協定締結(那智勝浦町・新宮市・古座町・古座川町・太田村・本宮町・熊野川町・北山村・下里町・太田村)
昭和 35 年	1 月	下里町・太田村の編入により、那智勝浦町消防団は 6 個分団、366 人となる。 4 月 6 個分団発足となり、実員数は 360 人となる。
	10 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ TX631 改型)1 台配置
昭和 36 年		旧第 2 分団(那智)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
昭和 38 年		旧第 3 分団(宇久井)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改型)1 台配置
昭和 39 年	2 月	旧第 6 分団(太田)に小型動力ポンプ(トハツ V30AS 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里-浦神東)に小型動力ポンプ(トハツ V30AS 型、B-3 級)1 台配置
昭和 41 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トハツ VM 型、B-3 級)1 台配置
昭和 42 年		旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	11 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(トヨタ FJ45 改型)1 台配置
昭和 43 年	10 月	15 日、第 1 回全国消防操法大会出場(於:駒沢リゾーツ公園、那智勝浦)

- 町消防団)
- 12月 消防団本部庁舎(旧第1分団勝浦屯所併設。鉄筋コンクリート2階建、延272㎡)竣工
- 昭和44年 10月 消防団員の定員数を380人に増員
旧第1分団(勝浦)に化学消防ポンプ自動車(いすゞTXG10改型、A-2級)1台配置
- 11月 16日、第1回和歌山県消防操法大会出場(於:白浜町)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
- 昭和45年 11月 旧第3分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V改型、A-2級)1台配置
- 12月 旧第3分団(宇久井)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延36㎡)
旧第1分団(勝浦)に第3号消防艇「白龍」(総トン数14.51t 総事業費12,110千円、1隻配置)
- 昭和46年 3月 消防団本部に勝浦ロータリークラブ寄贈の広報車(トヨタRT68V改型)1台配置
- 8月 旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 11月 旧第5分団(下里)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 昭和47年 7月 旧第6分団(太田)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
- 8月 旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(トヨタRN20改型)1台配置
- 昭和48年 7月 役場厚生課に農協共済寄贈の救急自動車(ニッサンVPC110改型)1台配置
- 10月 旧第4分団(色川)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延24㎡)
- 昭和49年 4月 自治省告示第80号により、消防本部・消防署の設置指定される。
- 昭和50年 4月 那智勝浦町消防本部・消防署発足、消防団本部庁舎にて業務開始
(消防職員の条例定数20人)
消防職員20人
消防ポンプ自動車(A-2級)1台
救急自動車(農協共済寄贈)1台
小型動力ポンプ(C-1級)1台
- 9月 旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞSBR320改型、A-2級)1台配置
- 10月 消防本部・消防署庁舎竣工(鉄筋コンクリート造、2階建、延690.65㎡)
消防署に日本船舶振興会寄贈の救急自動車(トヨタRH11V型)1台配置
- 昭和51年 3月 消防職員の条例定数30人に増員
- 5月 旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
- 7月 旧第5分団(下里-浦神東)に消防器具庫竣工(コンクリートブロック造、平屋建、延23.38㎡)
- 8月 旧第2分団(那智-天満)に消防車庫竣工(鉄骨造、平屋建、延45.47㎡)
- 昭和52年 3月 消防署に日本損害保険協会寄贈の消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型、A-1級)1台配置

- 9月 消防署に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞSCR320改型、A-2級)1台配置
- 10月 紀南消防相互応援協定締結、加盟 5 消防本部(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市)
- 11月 旧第2分団(那智-朝日)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
- 昭和53年 12月 消防署に30m級(32m)梯子付消防ポンプ自動車(日野TC343改型、A-1級、総事業費57,700千円)1台配置
- 昭和54年 10月 本宮町消防本部発足に伴い、昭和52年10月1日締結の紀南消防相互応援協定に加盟、6消防本部となる(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市・本宮町)。
- 12月 旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞKSCR320改型、A-2級)1台配置
- 昭和55年 7月 用務員1人増員
- 11月 旧第2分団(那智-朝日)に消防ポンプ自動車(いすゞKTLD44改型、B-1級)1台配置
- 12月 消防署に小型動力ポンプ(トヨタV15A型、C-1級)1台配置
- 昭和56年 3月 旧第2分団(那智-天満728の1)に消防屯所竣工(鉄骨造、2階建、延105.60㎡)
- 7月 旧第3分団(宇久井)及び旧第5分団(下里-天満)に小型動力ポンプ(トヨタV50C型、B-3級)各1台配置
- 昭和57年 3月 消防署に日本損害保険協会寄贈の救急自動車(トヨタJ-RH45VB型)1台配置
表示公表制度施行による第1回消防適マーク交付(交付率31%)
- 5月 消防本部に勝浦ロータリークラブ寄贈の消防広報車(トヨタL-TX67U改型)1台配置
- 7月 旧第2分団(那智-市野々)に小型動力ポンプ(トヨタV50C型、B-3級)1台配置
- 9月 救急医療情報システム業務開始
- 10月 旧第5分団(下里)の下里青年研修所敷地内に消防器具倉庫竣工(軽量鉄骨造、平屋建、延5.5㎡)
- 昭和58年 3月 県化学消火薬剤備蓄タンク竣工(消防本部敷地内、内容量20.337㎡)
- 4月 消防団を8個分団に改編
- 昭和59年 4月 第3代消防長 岩淵芳一就任
第2代消防署長 田原道夫就任
- 7月 消防本部及び消防署の機構改編
- 8月 第3分団(二河)第7分団(高芝)第8分団(小匠)に小型動力ポンプ(トヨタV50C型、B-3級)各1台配置
- 12月 第5分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2

- 級)1台配置
- 昭和60年 2月8日、日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞(那智勝浦町消防団)
7月1日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ結成(総員117人)
8月第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツV50D型、B-3級)1台配置
第2分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2級)1台配置
- 昭和61年 8月3日、第11回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:那智勝浦町)小型ポンプの部、第3位入賞(那智勝浦町消防団)
第4分団(井関)に日本消防協会寄贈の小型動力ポンプ付積載車(トヨタL-YH80改型、トハツV60BS型、B-2級)1台配置
11月第6分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(M-YY61改型)1台配置
第7分団(浦神東)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)1台配置
- 昭和62年 1月5日~3月30日の間、梯子車オハルホール実施
3月消防署に救急車(トヨタL-YH71VB型、1,998cc)1台配置
4月10日、(財)日本造船技術センターに消防艇の設計委託
10月28日、消防艇「はくりゅう」起工(勝浦船渠株式会社)
12月21日、第4号消防艇「はくりゅう」(総t数19t、109,000千円)進水
- 昭和63年 1月9日、第4号消防艇「はくりゅう」竣工
2月消防署に油圧救助器具1式配置(濱地利三朗氏寄贈)
3月消防署に司令広報車1台配置(トヨタN-LX76V改型、2,400cc)(濱地利三朗氏寄贈)
那智勝浦町防災行政無線システム完成運用開始
8月7日、第12回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:高野町)ポンプ車の部、優勝(那智勝浦町消防団)
第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツV50D型、B-3級)1台配置
9月6日、局地的集中豪雨により那智川が氾濫、川関地区を中心に床上、床下浸水被害続出
10月消防職員の条例定数32人に増員
第2分団(勝浦)に小型動力ポンプ(ユネイトP303B型、C-1級)1台配置
第4分団(天満)に小型動力ポンプ(トハツV20B型、C-1級)1台配置
第8分団(太田)に小型動力ポンプ(トハツV50D型、B-3級)1台配置
11月第7分団(下里)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR58E2N改型、A-2級)1台配置
- 平成元年 2月消防本部通信指令室に全国消防共通波及び防災相互通信波専用基地局を整備
8月消防署に非常電源設備設置
- 平成2年 1月第1分団(勝浦)に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞP-FRR12AV改型、A-2級)1台配置

- 2月 第3分団(二河)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルM-KT6改型)1台配置
- 3月 第3代消防長 岩淵芳一退任
- 4月 第4代消防長(心得)兼消防署長 田原道夫就任
- 7月9日、第4代消防長兼消防署長 田原道夫就任
- 8月1日、和歌山県防災行政無線システム運用開始
- 9月19日夜半、大型台風19号白浜町に上陸、本町に多大な被害をもたらす。
- 10月 女性消防団員採用(22人)
- 11月 第7分団(浦神東)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
20日、女性消防団員入団式挙行(於:町体育文化会館)
- 12月 第8分団(太田南大居)に消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR型、A-2級)1台配置
- 平成3年 2月8日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
- 4月 消防署交替制勤務者の変則三部制実施
救急救命士法施行(救急隊員の行う応急処置の範囲拡大)
- 8月 第3代消防署長 住野晃久就任
- 11月 第7分団(下里天満)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 12月 消防署にCD-型、A-2級、4WD式、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR改型)1台配置
- 平成4年 3月 宇久井コミュニティ消防センター竣工(2階建、延63.06㎡)
太田コミュニティ消防センター竣工(2階建、延64.97㎡)
- 8月2日、第14回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:有田市)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
- 9月 第8分団(浦神)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 10月14日、第13回全国消防操法大会出場(於:横浜市)小型ポンプの部入賞、優良賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12月 色川コミュニティ消防センター竣工(2階建、延53.73㎡)
第4分団(天満)にCD-型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DB型)1台配置
- 平成5年 1月5日~3月31日の間、梯子車オハルホール実施(2回目)
- 4月 消防職員の週40時間勤務体制実施に伴い、消防署交替制勤務者の変則三部制が完全三部制となる。
- 5月 消防署に救急車(いすゞT-WFR12FVH改型)1台配置(日本消防協会寄贈)

- 7月 紀南消防相互応援協定に3消防本部が新規加盟、(近隣9消防本部となる。)田辺市・大辺路消防組合・白浜町・串本町・古座川消防組合・那智勝浦町・新宮市・本宮町・熊野市
- 10月 消防署にIA型、A-2級、水槽付き消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DBV改型)1台配置
- 12月 第4分団(井関)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
- 平成6年 3月 天満コミュニティ消防センター竣工(平屋建、延38.99㎡)
- 11月 消防署に軽4輪4WD式小型動力ポンプ、動力噴霧機積載車(スバルパーチャージャー)1台配置
- 12月 第3分団(須崎)にCD型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKR66GN改型)小型動力ポンプ(トヨタV-46A型)各1台配置
- 平成7年 1月 兵庫県南部地震災害に緊急消防援助隊派遣、活動地神戸市須磨区及び長田区、第一次派遣隊(4人)1月18日~1月21日(4日間)第二次派遣隊(4人)1月21日~1月23日(3日間)出動車両、水槽付消防ポンプ自動車1台、主な活動内容は消火活動及び人命救助活動
- 3月 消防団(第1分団~第8分団)車両に受令機9機設置
- 8月 消防団(第1分団~第8分団)車両に受令機7機設置
- 9月 3日、町総合防災訓練(木戸浦・杉浦島所有地)
- 10月 消防職員の条例定数40人に増員
- 12月 第1分団(勝浦)にCD型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞKC-NKR71GN改型)1台配置
- 平成8年 3月 第3分団(二河)に車庫、資機材備蓄倉庫設置(木造平屋建24.09㎡)消防署資機材倉庫建設(木造平屋建20.16㎡)
- 4月 消防本部、消防署の機構改革(本部3課7係、消防署3班9係)
- 8月 聴覚障害者緊急通報用ファクシミリ運用開始
- 10月 消防団本部に可搬消防ポンプ付軽積載車1台配置(日本消防協会寄贈)
- 平成9年 2月 消防署にA-2級、型化学消防ポンプ自動車(いすゞKC-FSR33G2V改型)1台配置
- 3月 無線中継基地局(しょうぼうみょうほう)妙法山に設置
第4代消防長 田原道夫 退任
- 4月 第5代消防長 森本桂司 就任
- 6月 消防団司令広報車1台配置
- 11月 消防署前面土地を購入し、梯子車等の訓練用地を確保(371.23㎡)
- 平成10年 2月 消防署に司令広報車1台配置(トヨタKD-KZN型、2,980cc)
(全日本消防人共済会寄贈)
- 3月 第6分団(色川)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置

- 4月 消防団無線機 52 機配備運用開始(消防団波)
- 6月 携帯電話からの 119 通報、県下 4 ブロックに分けて運用開始、当消防本部は田辺市消防本部を代表とする紀南ブロックに属する。
- 7月 第 17 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:上富田町)小型ポンプの部優勝(第 3 分団)
- 10月 勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
- 11月 消防署に CD- 型、A-1 級、4WD、消防ポンプ自動車(いすゞ KC-NKS71GR 型)1 台配置(日本損害保険協会寄贈)
- 平成 11 年 3月 消防署に高規格救急自動車(トヨタ CB-VCH38S 型、4WD、3,370cc)1 台配置
那智勝浦町コミュニティ消防センター竣工(鉄骨造 2 階建、延 553.02 m²)
- 10月 消防艇「はくりゅう」主機関・高速エンジン 2 基オーバーホール実施(10 月 25 日～11 月 30 日)
- 平成 12 年 1月 梯子車オーバーホール実施(1 月 17 日～3 月 30 日)(3 回目)
- 4月 消防吏員服制規程の改正
- 6月 第 23 回東牟婁郡消防大会・第 18 回東牟婁郡消防操法大会が本町木戸浦グラウンドにて開催される。
- 10月 15 日、町総合防災訓練実施(那智漁港)
- 平成 13 年 1月 21 世紀最初の消防出初式挙行(消防艇「はくりゅう」に県防災ヘリコプター「きしゅう」も参加し、文字どおり陸・海・空の放水訓練を実施する。)
- 3月 那智山地区自然水貯水型消防水利施設が完成し、当該地区の水利充足率が向上する(平成 9 年度からの 4 か年継続事業)。
- 8月 21 日、台風 11 号襲来により太田川氾濫、人的被害は免れるものの、床上浸水 145 世帯 312 人、床下浸水 111 世帯 262 人、被害総額 779,694 千円の被害が生じた。
- 12月 那智漁港ヘリポート完成
- 平成 14 年 3月 第 3 代消防署長 住野晃久退任
- 4月 第 4 代消防署長 東 正通就任
消防吏員服制規程の改正によりアホロキョップ、活動服及び盛夏服貸与
- 平成 15 年 1月 県ドクターヘリ運航開始(基地病院 和歌山県立医科大学附属病院)
- 3月 高野小森川トンネルの非常通報装置等の通報等に関する協定の締結
- 4月 1 日、那智勝浦町消防本部潜水隊発足、那智勝浦町消防署に配置
- 平成 16 年 3月 第 5 代消防長 森本桂司退任
- 4月 第 6 代消防長 楠本 實就任
- 7月 第 20 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:橋本市)
小型ポンプの部(第 4 分団)、ポンプ車の部(第 1 分団)ともに優勝、当日、雷雨により一時中断され、後半の部が 8 月 1 日和歌山市において開催

- 11月 第19回全国消防操法大会出場(於・横浜市国際総合競技場)小型ポンプの部 入賞・敢闘賞受賞(那智勝浦町消防団)
- 12月 昭和53年12月配置の梯子付消防ポンプ自動車廃車
- 平成17年 3月 消防署に2台目の高規格救急自動車配置(トヨタ TC-VCH38S 型、4WD、3,370cc)
- 10月 第17回全国女性消防操法大会出場(於・横浜市)
- 12月 1日、下里コミュニティ消防センター 竣工(鉄骨造2階建、延97.90平方メートル)
- 平成18年 3月 23日、携帯119直接受信システム運用開始
- 4月 1日、消防本部・消防署の機構改編
- 7月 第21回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於・御坊市)ポンプ車の部(第7分団)3位入賞
- 平成19年 3月 本部に司令広報車配置(日本消防協会寄贈)、昭和63年配備、司令広報車廃車
- 第6代消防長 楠本 實退任
- 4月 第7代消防長 東 正通就任
- 第5代消防署長 小脇邦雄就任
- 8月 30日、第4分団井関車庫竣工(鉄骨平屋建、延24.92㎡)
- 10月 16日、和歌山県消防協会会長に消防団長 永田 宏就任
- 11月 第2分団(勝浦)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)、小型動力ポンプ(トヨタV20E型、C-1級)各1台配置
- 第5分団(宇久井)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)を1台配置
- 平成20年 4月 1日、勝浦認定こども園幼年消防クラブ 結成
- 平成21年 4月 消防署に救助工作車 型(三菱 U-FK618GZW 改型)置配(愛知県西春日井広域事務組合消防本部寄贈)
- 9月 第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタVC52BS型、B-3級)配置
- 平成22年 3月 消防署に高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S型、4WD、2,690cc)配置
- 9月 3日、消防団第4分団に小型動力ポンプ付積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(シボウ SF756AZ型、B-2級)各1台を総務省消防庁より借受29日、消防団第3分団に小型動力ポンプ(トヨタVF53AS型、B-3級)1台配置
- 同日、消防団第7分団に小型動力ポンプ(トヨタVF53AS型、B-3級)2台配置
- 平成23年 1月 消防団第6分団に小型動力ポンプ付き積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(トヨタVF53AS、B-3級)配置
- 3月 東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊派遣、派遣地は宮城県石巻市及び女川町第一次隊3月12日～17日(6日間)、第二次隊3月15日～20日(6日間)、出動車両、化学車1台、主な活動内容は救助活動

- 第7代消防長 東 正通退任
- 4月 第8代消防長 小脇邦雄就任
第6代消防署長 中嶋秀和就任
- 9月 4日、台風12号による災害が発生(死者28人、行方不明者1人、全壊103棟、大規模半壊105棟、半壊800棟、一部破損440棟)
- 11月 消防署に気象観測装置設置
- 12月 消防署に小型動力ポンプ(トハツ V20E型、C-1級)1台配置
第7分団(浦神)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイトツ EBD-S211P型)、小型動力ポンプ(トハツ VC52BS型、B-3級)各1台配置
消防団災害対策用資器材(チェンソー)7機配置
- 平成24年 2月 第7分団(下里)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M型)、小型動力ポンプ(トハツ V25AS型、B-3級)、小型動力ポンプ(元ツト P455DAN型、B-3級)各1台配置
湯川地区 甫子浦に防災倉庫設置
- 3月 消防署にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M型)1台配置
消防団災害対策用資器材(発電機等)防災倉庫に配置
- 11月 消防署に後方支援車(トヨタ CBF-TRH226K型)1台配置
- 12月 第1分団(勝浦)にCD-1型、A-2級、水槽付(900ℓ)消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M型)1台配置
第8分団(南大居)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M型)、小型動力ポンプ(トハツ V25AS型、B-3級)各1台配置
- 平成25年 2月 第7分団(下里)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイトツ EBD-S211P型)1台配置
- 3月 第8代消防長 小脇邦雄退任
- 4月 第9代消防長 中嶋秀和就任
第7代消防署長 塩崎文二就任
- 12月 消防署に軽積載車(三菱 GBD-U62THNSE7型)1台配置
- 平成26年 2月 第3分団(天満)と第4分団(天満)にCD-1型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞ エルワ TDG-NMS85AN型)各1台配置
第3分団(二河)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダイトツ EBD-S211P)、小型動力ポンプ(トハツ VF53AS型、B-3級)各1台配置
- 3月 第4分団(市野々)に小型動力ポンプ付き軽積載車(双キ EBD-DA64V、658cc)、小型動力ポンプ(元ツト Fi8000AS型、B-2級)各1台を総務省消防庁より借受
朝日地区消防本部庁舎裏に防災倉庫設置
第9代消防長 中嶋秀和退任
- 4月 第10代消防長 塩崎文二就任
第8代消防署長 江崎光洋就任

- 7月 消防署にボートトレー（リックス社製、BOAT 14FW-GW）1台配備
- 平成27年 2月 消防署に高規格救急自動車（トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,693cc）配置
3月 第10代消防長 塩崎文二退任
4月 第11代消防長 江崎光洋就任
第9代消防署長 峯 幸生就任
- 平成28年 3月 消防救急デジタル無線、消防救急指令装置運用開始
第11代消防長 江崎光洋退任
4月 第12代消防長 峯 幸生就任
第10代消防署長 阪本幸男就任
7月 第26回和歌山県消防ポンプ操法大会出場（於・和歌山市）小型ポンプの部（第8分団）準優勝
12月 消防署に水槽付き消防ポンプ自動車（日野 SDG-GX7JGAA 型、4WD、6,403cc）配置
- 平成29年 3月 第12代消防長 峯 幸生退任
4月 第13代消防長 阪本幸男就任
第11代消防署長 湯川辰也就任
- 平成30年 3月 消防署に潜水救助車（三菱 TPG-FEA50 型、2WD、2,998cc）配置
第13代消防長 阪本幸男退任
4月 第14代消防長 湯川辰也就任
第12代消防署長 関谷善文就任
- 平成31年 2月 平成30年度全国消防団員意見発表会に和歌山県代表として選出（第4分団班長）優良賞受賞
第6分団に小型動力ポンプ付軽積載車（ダットウ EBD-S510P 型、4WD、658cc）配置
3月 本部に指揮車（トヨタ CBF-TRH226K 型、4WD、2,693cc）配置
第1分団に小型動力ポンプ付普通積載車（トヨタ LDF-KDY281 型、4WD、2,982cc）、小型動力ポンプ（パナソニック FF500 型、B-2級）配置
- 令和元年 5月 「平成」から「令和」に改元
-

歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	山縣 格	S50. 4. 1 ~ S56.10.13	町長兼任
2代	生駒倫造	S56.10.14 ~ S59. 3.31	町長兼任
3代	岩淵芳一	S59. 4. 1 ~ H 2. 3.31	
4代	田原道夫	H 2. 4. 1 ~ H 9. 3.31	
5代	森本桂司	H 9. 4. 1 ~ H16. 3.31	
6代	楠本 實	H16. 4. 1 ~ H19. 3.31	
7代	東 正通	H19. 4. 1 ~ H23. 3.31	
8代	小脇邦雄	H23. 4. 1 ~ H25. 3.31	
9代	中嶋秀和	H25. 4. 1 ~ H26. 3.31	
10代	塩崎文二	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
11代	江崎光洋	H27. 4. 1 ~ H28. 3.31	
12代	峯 幸生	H28. 4. 1 ~ H29. 3.31	
13代	阪本幸男	H29. 4. 1 ~ H30. 3.31	
14代	湯川辰也	H30. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	岩淵芳一	S50. 4. 1 ~ S59. 3.31	
2代	田原道夫	S59. 4. 1 ~ H 3. 7.31	
3代	住野晃久	H 3. 8. 1 ~ H14. 3.31	
4代	東 正通	H14. 4. 1 ~ H19. 3.31	
5代	小脇邦雄	H19. 4. 1 ~ H23. 3.31	
6代	中嶋秀和	H23. 4. 1 ~ H25. 3.31	
7代	塩崎文二	H25. 4. 1 ~ H26. 3.31	
8代	江崎光洋	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
9代	峯 幸生	H27. 4. 1 ~ H28. 3.31	
10代	阪本幸男	H28. 4. 1 ~ H29. 3.31	
11代	湯川辰也	H29. 4. 1 ~ H30. 3.31	
12代	関谷善文	H30. 4. 1 ~ 現在	

歴代消防団長

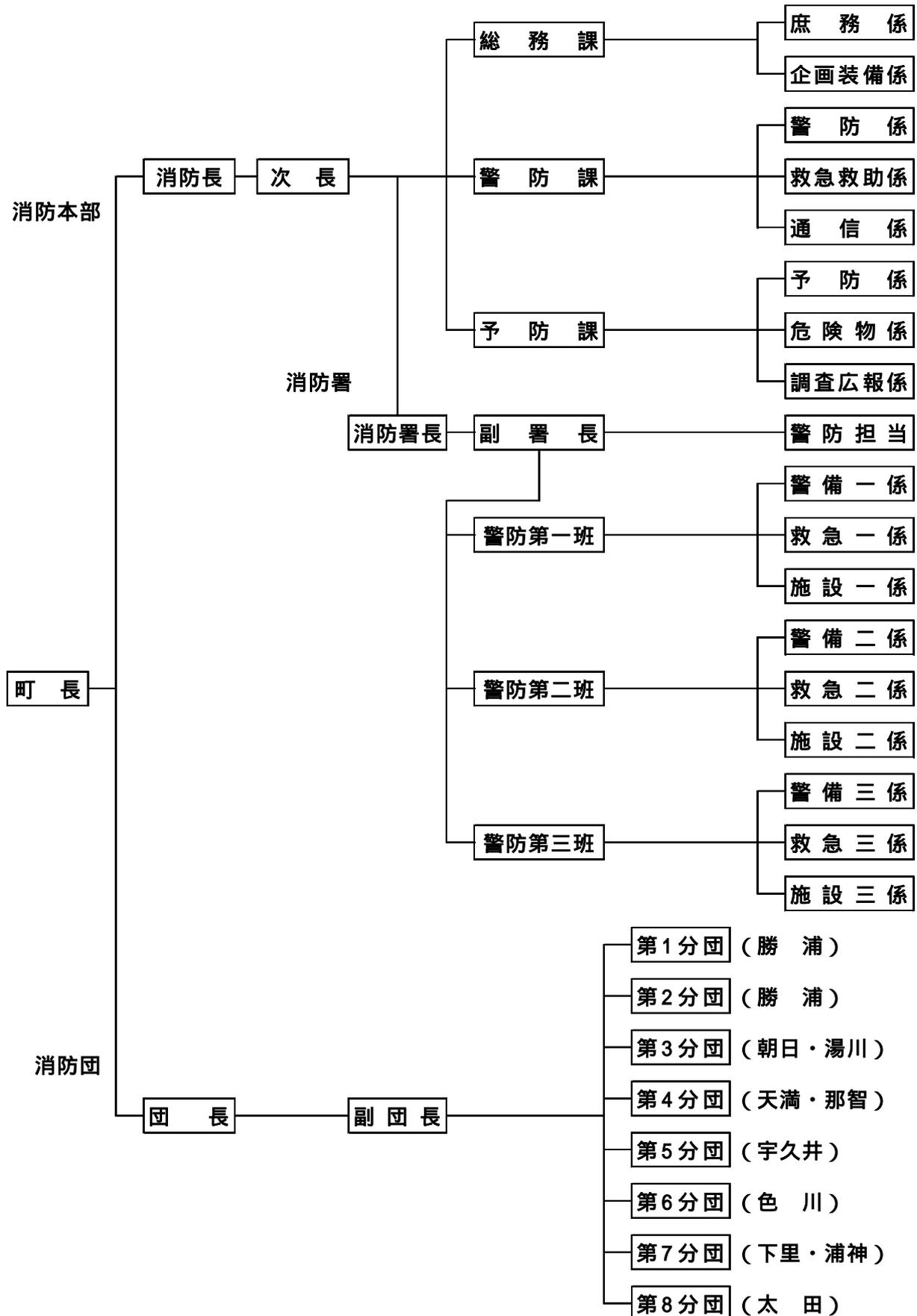
歴代	氏名	在職期間	備考
初代	村田定平	S30. 4. 1 ~ S32. 2. 8	
2代	根山英治	S32. 2.25 ~ S49. 6.30	
3代	久司正男	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
4代	田中熊市	S57. 4. 2 ~ H 7.10.31	
5代	清水美幸	H 7.11. 1 ~ H 9.10.31	
6代	永田 宏	H 9.11. 1 ~ H21. 3.31	
7代	前地俊秀	H21. 4. 1 ~ H27. 3.31	
8代	貝岐昌志	H27. 4. 1 ~ R 2. 3.31	
9代	下地将仁	R 2. 4. 1	

歴代消防副団長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	塩崎正夫	S30. 4. 1 ~ S34. 7.20	
	久司正男	S30. 4. 1 ~ S32. 2.24	
2代	久司正男	S32. 2.25 ~ S49. 6.30	
	鳥羽山藤夫	S35. 1.11 ~ S46.12.15	
3代	田中熊市	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
	榎本哲修	S49. 7. 1 ~ S57. 4. 1	
4代	榎本哲修	S57. 4. 2 ~ H 4. 3.31	
	藤本 繁	S57. 4. 3 ~ H 2. 3.31	
5代	後呂信喜	H 2. 4. 1 ~ H 7.10.31	
	清水美幸	H 4. 4. 1 ~ H 7.10.31	
6代	後呂信喜	H 7.11. 1 ~ H 9.10.29	
	永田 宏	H 7.11. 7 ~ H 9.10.31	
7代	津木 拓	H 9.11. 1 ~ H13. 3.31	
	丸山規賓	H 9.11. 1 ~ H13. 3.31	
8代	丸山規賓	H13. 4. 1 ~ H20. 3.31	
	倉本満夫	H13. 4. 1 ~ H20. 3.31	
9代	丸山規賓	H20. 4. 1 ~ H21. 3.31	
	竹原昌男	H20. 4. 1 ~ H21. 3.31	
10代	畑 哲也	H21. 4. 1 ~ H24. 3.31	
	村上幸弘	H21. 4. 1 ~ H24. 3.31	
11代	畑 哲也	H24. 4. 1 ~ H26. 3.31	
	貝岐昌志	H24. 4. 1 ~ H26. 3.31	
12代	貝岐昌志	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
	下地将仁	H26. 4. 1 ~ H27. 3.31	
13代	下地将仁	H27. 4. 1 ~ R 2. 3.31	
	丸山高史	H27. 4. 1 ~ R 2. 3.31	
14代	丸山高史	R 2. 4. 1	
	清水重良	R 2. 4. 1	

消防組織図

令和2年4月1日



消防本部の事務分掌

総務課

庶務係・企画装備係

- 1 人事及び給与に関すること。
- 2 消防本部の重要施策に関すること。
- 3 儀式に関すること。
- 4 公印、文書に関すること。
- 5 予算、決算及び会計に関すること。
- 6 公務災害補償に関すること。
- 7 福利厚生に関すること。
- 8 消防用財産の取得、管理及び処分に関すること。
- 9 消防団に関すること。
- 10 消防長会及び消防協会に関すること。
- 11 消防車両及び機器の整備に関すること。
- 12 他の課、係に属しないこと。

予防課

予防係・危険物係・調査広報係

- 1 建築確認の同意に関すること。
- 2 消防用設備に関すること。
- 3 建築物、工作物等の火災及び人命危険の予防措置に関すること。
- 4 電気設備及び火気使用設備の火災予防措置に関すること。
- 5 危険物製造所等の許認可に関すること。
- 6 危険物製造所等の火災及び人命危険の予防措置に関すること。
- 7 少量危険物及び準危険物の火災予防措置に関すること。
- 8 高圧ガス、火薬類、核燃料物質、放射性同位元素、劇毒物等の火災予防措置に関すること。
- 9 違反消防対象物の処理に関すること。
- 10 消防対象物の査察に関すること。
- 11 屋外における火災予防措置に関すること。
- 12 たき火又は喫煙の制限区域の指定に関すること。
- 13 火災の原因及び損害の調査・報告に関すること。
- 14 広報企画に関すること。
- 15 刊行物等による広報に関すること。
- 16 消防報道に関すること。
- 17 報道機関との連絡に関すること。
- 18 広報結果の確認及び分析に関すること。
- 19 防火・防災管理制度に関すること。
- 20 防火・防災管理者の講習、資格管理及び指導育成に関すること。
- 21 共同防火・防災管理に関すること。
- 22 消防計画、事業所消防活動計画及び防火・防災管理業務の指導に関すること。
- 23 自衛消防隊の訓練指導に関すること。
- 24 火薬類の規制事務に関すること。
- 25 高圧ガスの規制事務に関すること。
- 26 液化石油ガスの規制事務に関すること。
- 27 屋外催しに係る防火管理に関すること。

警防課

警防係・救急救助係・通信係

- 1 警防本部等の運営に関する事。
- 2 災害現場の指揮及び支援に関する事。
- 3 消防戦術の研究及び消防部隊の運用管理に関する事。
- 4 水防に関する事。
- 5 消防作業等従事者の損害補償に関する事。
- 6 救助対策に関する事。
- 7 救助技術の研究及び指導に関する事。
- 8 震災時の火災拡大防止及び人命安全確保に関する事。
- 9 特殊災害の調査研究及び消防活動対策に関する事。
- 10 救急業務の計画及び調査に関する事。
- 11 救急記録に関する事。
- 12 救急業務協力者に係る損害補償に関する事。
- 13 救急隊員の指導及び訓練に関する事。
- 14 住民の救急相談及び救急指導に関する事。
- 15 医療機関との連絡に関する事。
- 16 消防通信及び消防関係電話に関する事。
- 17 災害通信の運用、通信統制及び指導に関する事。
- 18 指令管制装置に関する事。
- 19 消防水利の設置に関する事。
- 20 消防水利の対策及び開発に関する事。
- 21 消防相互応援協定に関する事。
- 22 県防災ヘリコプターに関する事。
- 23 消防艇に関する事。
- 24 那智勝浦町消防計画及び那智勝浦町地域防災計画に関する事。
- 25 防災関係機関との連絡調整に関する事。
- 26 防火及び防災教育に関する事。
- 27 老人等の防災指導及び防災福祉に関する事。
- 28 児童生徒に対する防火、防災教育に関する事。

消防署の事務分掌

警備係・救急係・施設係

- 1 火災等の警防に関する事。
- 2 火災の原因及び損害の調査に関する事。
- 3 救助に関する事。
- 4 救急に関する事。
- 5 水防に関する事。
- 6 消防水利に関する事。
- 7 警防対策及び訓練、演習に関する事。
- 8 消防通信運用に関する事。
- 9 消防機器の運用技術に関する事。
- 10 県防災ヘリコプターの要請に関する事。
- 11 消防艇の運航に関する事。
- 12 町民の生活安全及び防災福祉に関する事。

消防職員数の推移

令和2年4月1日

年度	消防職員数		備 考
	定数	実員	
昭和50年4月	20人	20人	那智勝浦町消防本部・署発足6月1人減、昭和51年2月1人増
昭和51年4月	30人	26人	昭和51年3月定数30人に増、4月6人増
昭和52年4月	30人	26人	5月4人増
昭和54年4月	30人	30人	6月1人減
昭和57年4月	30人	29人	7月1人減・2人増
昭和63年4月	30人	29人	10月定数32人に増・2人減3人増
平成元年4月	32人	30人	4月2人増・10月2人減
平成2年4月	32人	29人	4月1人減・6月1人減・1人増
平成3年4月	32人	29人	
平成4年4月	32人	31人	4月2人増
平成5年4月	32人	31人	
平成6年4月	32人	32人	4月1人増
平成7年4月	32人	32人	10月定数40人に増
平成8年4月	40人	35人	4月3人増
平成9年4月	40人	36人	4月2人減・3人増
平成10年4月	40人	38人	4月2人増
平成11年4月	40人	39人	4月1人増
平成12年4月	40人	38人	4月1人減
平成13年4月	40人	38人	4月1人減・1人増
平成14年4月	40人	38人	4月1人減・1人増
平成15年4月	40人	39人	4月1人減・2人増
平成16年4月	40人	40人	4月1人減・2人増
平成17年4月	40人	39人	4月1人減
平成18年4月	40人	39人	
平成19年4月	40人	39人	4月1人減・1人増
平成20年4月	40人	39人	
平成21年4月	40人	39人	
平成22年4月	40人	39人	10月1人増
平成23年4月	40人	39人	4月3人減・2人増
平成24年4月	40人	40人	4月1人増
平成25年4月	40人	40人	4月3人減・3人増
平成26年4月	40人	40人	4月2人減・2人増
平成27年4月	40人	40人	4月2人減・2人増
平成28年4月	40人	40人	4月1人減・1人増
平成29年4月	40人	40人	4月3人減・3人増、6月1人減、平成30年1月1人減
平成30年4月	40人	39人	4月2人減・3人増
平成31年4月	40人	40人	4月1人増
令和2年4月	40人	40人	

消防団員数の推移

令和2年4月1日

年度	消防団員数		備考	年度	消防団員数		備考
	定数	実員			定数	実員	
明治39年4月		75人	私設天満消防組創設	平成12年4月		314人	(31)
明治40年4月			那智消防組創設	平成13年4月		313人	(32)
明治41年4月		65人	勝浦消防組創設	平成14年4月		297人	(32)
明治42年4月		50人	私設井関消防組創設	平成15年4月		295人	(32)
昭和30年4月		256人	那智勝浦町消防団発足4個分団	平成16年4月		286人	(30)
昭和35年4月	380人	360人	那智勝浦町消防団発足6個分団	平成17年4月		291人	(29)
昭和40年4月		370人		平成18年4月		287人	(30)
昭和45年4月		376人		平成19年4月		286人	(31)
昭和50年4月		366人		平成20年4月		280人	(29)
昭和55年4月		361人		平成21年4月		272人	(29)
昭和58年4月		347人	那智勝浦町消防団発足8個分団	平成22年4月	323人	264人	(28)
平成元年4月		330人		平成23年4月		267人	(30)
平成2年4月		320人	10月女性消防団員採用22人	平成24年4月		259人	(32)
平成3年4月		341人	(23)	平成25年4月		248人	(27)
平成4年4月		331人	(23)	平成26年4月		242人	(24)
平成5年4月		325人	(24)	平成27年4月		241人	(23)
平成6年4月		327人	(24)	平成28年4月		237人	(22)
平成7年4月		322人	(24)	平成29年4月		240人	(22)
平成8年4月		325人	(24)	平成30年4月		239人	(22)
平成9年4月		317人	(25)	平成31年4月		237人	(21)
平成10年4月		310人	(26)	令和2年4月		219人	(22)
平成11年4月		318人	(29)				

()内は女性消防団員数